

令和五年度 伊平屋村出身高校生激励会



第4号

教育委員会

たより

文責

伊平屋村
教育委員会
屋比久健太郎



県内十二の高等学校から

二十一名が集い近況を語る

六月十日(土)に浦添市社会福祉センターにおいて令和五年度伊平屋村出身高校生激励会が行われました。今年度は沖縄本島の十二の高等学校から男子十一名、女子十名の二十一名が参加されました。高校生の近況報告からは、学習面や部活動での目標を立て、将来は大学への進学を目指すなどの言葉がありました。激励会の合間に数人に声をかけると、充実した高校生活が伺えた。先輩からのことばでは、伊平屋中学校六十八期生、首里高校卒、沖縄国際大学総合文化学部社会科学文化



学部社会科学文化学科三年の譜久村有珠さんから、一、今を楽しむ。二、自由と責任。三、何かあったら大人に相談する。という三つのメッセージが送られた。生徒を代表してお礼のことばでは、国吉星南さん、玉城愛さんから、久しぶりにみんなに会えて色々話ができ嬉しかった。初めての参加で、嬉しかった。今日はありがとうございました。のあいさつがありました。

北緯二十七度線モニュメント広場完成

六月二十二日(木)、伊平屋村産業連携拠点センターにて、北緯二十七度線モニュメント広場完成記念式典が開催された。復帰五十年に合わせ、令和三年度より整備を進められてきた。一九七二年の復帰まで、米統治下に置かれた沖縄と日本本土の「国境」となった「北緯二十七度線」が沖縄県内で唯一地上を通過する場所となる本村島尻に記念広場が完成した。記念式典では、村の児童生徒を代表して、野甫中学校生徒会長の前田倅奈さんがあいさつを行った。今回はその全文をご紹介します。

一九四五年、日本、そして沖縄での悲惨な戦争が終わりました。そして沖縄では二七年間に渡る、アメリカカ世(ゆゑ)が始まりました。通貨はドル、車は右、今の私には想像できない光景が広がっていて、ここ伊平屋村には、日本と、米軍統治下にあった沖縄の国境線となっていた『北緯二十七度線』が通っていたと聞きました。モニュメントが設置された場所は日本で唯一、北緯二十七度線が通っている陸地です。このモニュメントはこの戦争で何があったのかを後世に残していくために作られたものだと思います。

沖縄ではドルから円になり、車が左側を走っている今でも、世界では争いや戦争が絶えず起こっています。七八年前の悲惨な出来事を繰り返さぬよう、私たちは歴史や社会での出来事について学び続け、次の世代に伝えていかなければならないと思います。令和五年六月二十二日 野甫中学校代表 前田倅奈

祝 北緯二十七度線モニュメント広場完成記念式典・祝賀会
令和5年6月22日 伊平屋村 伊平屋村教育委員会

